

臓器移植及び造血幹細胞移植

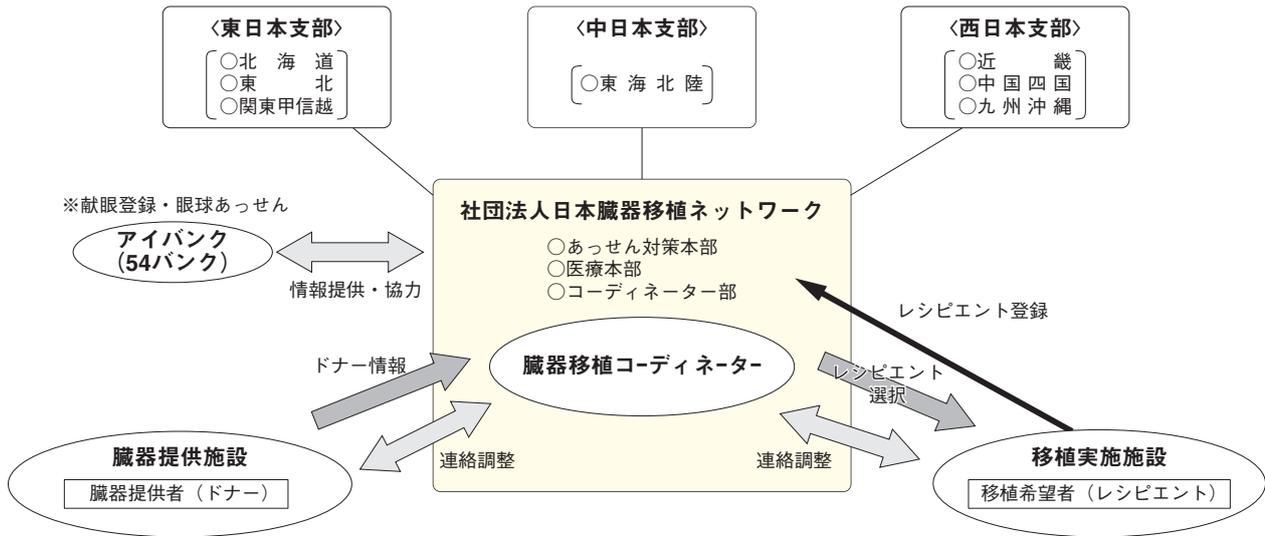
概要

臓器移植体制

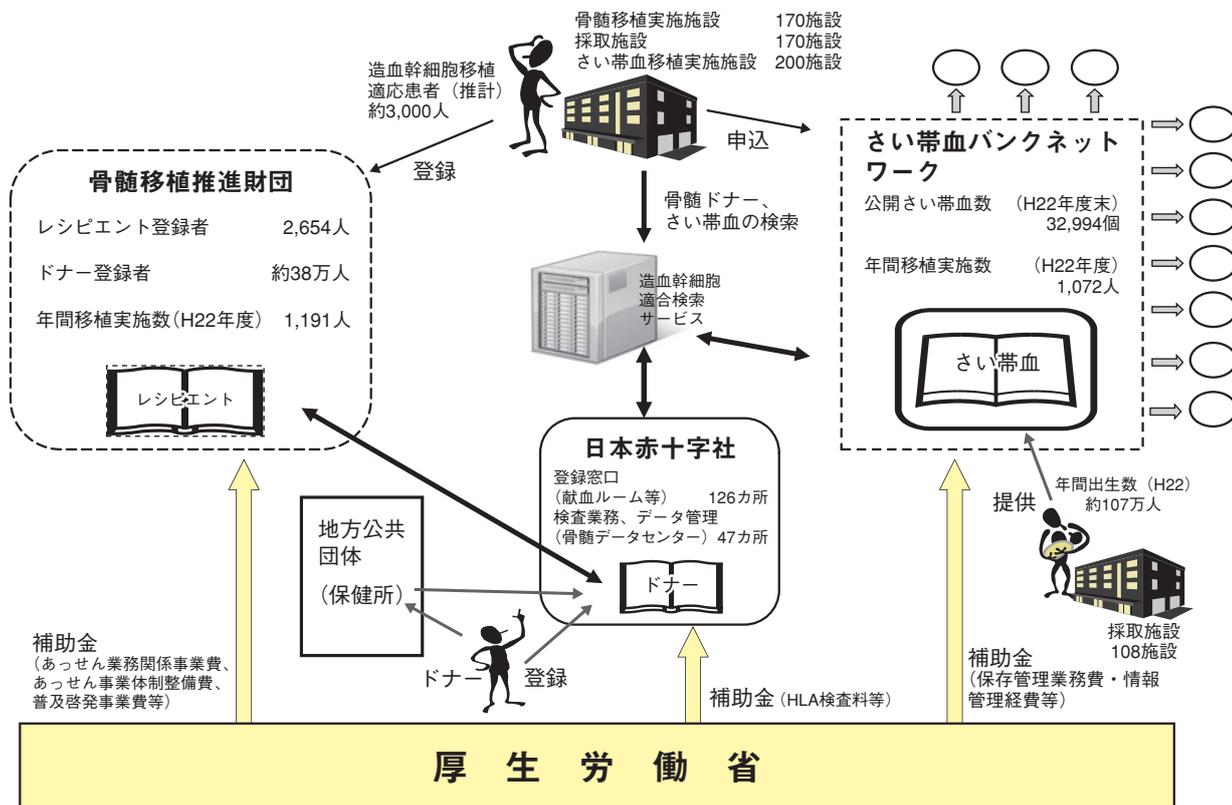
[臓器移植体制]

従前の腎臓移植体制を見直し、平成7年度から新たに全国を一元化した腎臓移植体制（ネットワーク）が発足した。さらに、平成9年10月に施行された「臓器の移植に関する法律」により多臓器移植が可能となり、それに対応したネットワークへと拡大を図った。現在、臓器移植については社団法人日本臓器移植ネットワークが中心となり、統一的な基準に基づき移植を受ける患者を選択するなど、公平かつ適正な臓器のあっせんを行っている。また、眼球（角膜等）の移植については別途全国54カ所のアイバンクが普及啓発を含むあっせん業務を行っている。

日本臓器移植ネットワーク体系図



造血幹細胞移植実施体制



詳細データ① 臓器移植の累計件数

	臓器提供者数		移植実施件数		待機患者数
		うち脳死下		うち脳死下	
心臓	97名	97名	97件	97件	172名
肺	78名	78名	96件	96件	153名
肝臓	99名	99名	106件	106件	334名
膵臓	94名	92名	94件	92件	185名
腎臓	1,233名	116名	2,271件	228件	12,201名
小腸	9名	9名	9件	9件	5名
眼球（角膜）	12,983名	47名	21,079件	92件	2,554名

資料：(社)日本臓器移植ネットワーク、(財)日本アイバンク協会調べ

- (注) 1. 臓器提供者数、移植実施件数は、平成9年10月16日(臓器移植法施行の日)から平成23年3月31日までの累計、移植待機患者数は平成23年3月31日現在数である。
2. 臓器移植法に基づく脳死判定事例は、臓器移植法の施行の日から平成23年6月30日までに全国で141例行われている。なお、第8例目については、法的脳死判定が行われ法的に脳死と判定されたが、医学的理由により臓器の摘出が行われなかったため、臓器提供者数には含まれていない。
3. 膵臓及び腎臓の臓器提供者数、移植実施件数及び待機患者数については膵臓と腎臓の同時移植を含む。
4. 心臓及び肺の臓器提供者数、移植実施件数及び待機患者数については心臓と肺の同時移植を含む。

詳細データ② 造血幹細胞移植の実施件数の推移

	ドナー（提供者）		移植件数		
	骨髄提供登録者数	さい帯血公開数	骨髄	末梢血幹細胞	さい帯血
平成3年度	3,176	—	—	—	—
平成4年度	19,829	—	8	—	—
平成5年度	46,224	—	112	—	—
平成6年度	62,482	—	231	—	—
平成7年度	71,174	—	358	—	—
平成8年度	81,922	—	363	—	1
平成9年度	94,822	—	405	—	19
平成10年度	114,354	—	482	—	77
平成11年度	127,556	—	588	—	114
平成12年度	135,873	4,343	716	—	169
平成13年度	152,339	8,384	749	—	220
平成14年度	168,413	13,431	739	—	297
平成15年度	186,153	18,424	737	—	702
平成16年度	204,710	21,335	851	—	678
平成17年度	242,858	24,309	908	—	658
平成18年度	276,847	26,816	963	—	754
平成19年度	306,397	29,197	1,027	—	778
平成20年度	335,052	31,149	1,118	—	875
平成21年度	357,378	32,793	1,232	—	907
平成22年度	380,457	32,994	1,191	1	1,072
平成23年度	383,337	33,133	196	0	179
累計	—	—	12,974	1	7,500

※平成8～10年度のさい帯血関係データはさい帯血バンクネットワーク設立前に各バンクが扱った数

※平成23年度については、5月末時点の数値

※東北地方太平洋沖地震の影響により、宮城さい帯血バンクが保存しているさい帯血の公開は一時停止している

※末梢血幹細胞移植については、平成22年10月より段階的に実施

※ドナー登録要件の緩和：

平成17年3月1日～ 登録年齢の下限を20歳から18歳へ引き下げ（提供は20歳から）、登録受付時の「家族の同意」条件の削除、パンフレット「チャンス」を読み、骨髄提供の内容を理解している場合は登録時の説明をビデオ視聴を省略できる

平成17年9月1日～ 登録年齢の上限を50歳から54歳へ引き上げ（提供は55歳まで）